

～健口と輝く笑顔のために～

歯科衛生だより 会報

2023 December vol. 78

発行人／吉田直美 発行／公益社団法人 日本歯科衛生士会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

日本歯科衛生学会第18回学術大会 人生100年時代、求められる地域医療連携とは —歯科衛生士の専門性を探る—

主催：日本歯科衛生学会、公益社団法人日本歯科衛生士会

共催：特定非営利活動法人静岡県歯科衛生士会

後援：静岡県、一般社団法人静岡県歯科医師会、

一般社団法人静岡市静岡歯科医師会、一般社団法人静岡市清水歯科医師会



日本歯科衛生学会
学会長
吉田 幸恵氏



第18回学術大会
大会長
森野 智子氏



日本歯科衛生士会
会長 吉田 直美氏

「日本歯科衛生学会第18回学術大会」は2023年9月16日(土)から18日(月・祝)にかけて、静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」で4年ぶりの会場開催となった。

参加者は1587名、会員発表(口演発表36題、ポスター発表83題)、特別講演、教育講演、招聘講演、シンポジウム、日本口腔衛生学会共同企画、県民フォーラム、ワークショップなどで会場は参加者の研鑽の場となった。オンデマンド配信は10月4日(水)から10月31日(火)まで。

詳細については、「学術誌」および日本歯科衛生学会ウェブページの開催報告をご参照ください。



日本歯科衛生学会
学術大会一覧

ワークショップ1

在宅・施設口腔健康管理委員会

在宅・施設において求められる地域連携

地域の在宅療養者、施設利用者の方々に歯科衛生士が口腔健康管理を行うにあたり求められる地域連携を考える機会とした。



多職種連携の概要や在宅・施設の事例報告を提示し、①多職種とどのような連携をしているか ②在宅・施設での歯科衛生士の専門性とは何かの2テーマを設けグループワークを行った。

①では実際に行っている地域連携から課題やこれからの展望を見出した。ICTの活用が始まっているが、顔の見える関係をつくることは大事な要素であり、垣根のない連携を目指していくことを考察していた。また、②の専門性については歯科の専門家としての知識や技術は当然であるがそれを伝える方法や多職種連携、地域ケア会議など多様な場面で

専門性を発揮できるようにといった意見が出ていた。今後も歯科衛生士が自信をもって地域で活躍できるよう、委員会として取り組んでいきたい。



(公益社団法人日本歯科衛生士会 在宅・施設口腔健康管理委員会 常務理事 村西 加寿美)

ワークショップ2

地域歯科保健委員会

行政の歯科衛生士の将来ビジョンを語り合おう —都道府県、市区町村に勤務する歯科衛生士が職能を発揮するために—

行政歯科衛生士の目指すべき姿、そのために何をすべきかと共に考え、つながることを目的にワークショップを開催した。最初に、都道府県、政令指定都市、市町村の各自治体で活躍する歯科衛生士3名(愛知県: 小栗智江子氏、静岡市:

坂田千穂氏、千葉県市原市：高澤みどり氏)から「行政の歯科衛生士としてこうありたい!～これまで取り組んできたこと・今後の課題～」について事例報告を行っていただいた。その後、「これから私たちが目指すべき姿、そのために何をすべきか」について、グループワークを行った。

予想を上回る43名の参加者となり、若手からベテランまで、互いにその経験と思いを共有した。参加者からは、「同じ環境で働く志をもった仲間と会え、私にも何かできるのではないかと前向きな気持ちになった」「つながることで、まだできることがたくさんあると気付き、やる気につながった」などの感想が寄せられた。

歯科口腔保健、医療、福祉、危機管理における対応等、より広域かつ高い専門性が求められる今、行政歯科衛生士が



組織の中でその職能を活かしていくために、今後もこのような場の必要性を感じたワークショップであった。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 地域歯科保健委員会 理事 長 優子)

ワークショップ3

診療所委員会

診療所歯科衛生士の魅力を語ろう！

歯科衛生士の専門性を考えたときに、自信を持って自分の専門を語ることができる歯科衛生士がどれだけいるのだろうか。改めて診療所で勤務する歯科衛生士と共にそれぞれの取り組み、また歯科衛生士の魅力を共有するためにワークショップを開催した。

当日は診療所委員会メンバー4名に加え、全国で活躍する柏井伸子氏、奥山洋実氏をゲストに迎え、リレー形式で各自の取り組みについて発表した。発表では「ライフステージを支える歯科衛生士」をキーワードに、小児・歯周病・院内システム・感染症対策と多岐にわたった内容について、症例を交えながらメッセージが発信された。ディスカッションでは助



言者の熊谷靖司氏(東京都 熊谷歯科医院 院長)から「歯科衛生士は患者さんの健康を長期で管理しており、診療所歯科衛生士がその中心にいる。組織力を高め情報を発信してほしい」とエールをいただいた。診療所委員会では今後も診療所勤務の歯科衛生士が自らの専門性を高め、日々の臨床に取り組めるよう積極的に情報発信を行っていく。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 診療所委員会 溝口 奈菜)

全国病院歯科衛生士連絡協議会報告

全国病院歯科衛生士連絡協議会(以下：協議会)は、病院・診療所に勤務する歯科衛生士がチーム医療における知識・技能の習得および最新の情報の共有化を図り、医科歯科連携のチーム医療に的確に対応することを目的として開催し、4年ぶりに現地開催となった今年度は10回目という節目を迎えた。



協議会発足当初よりご講演いただいている厚生労働省医政局歯科保健課長の小椋正之先生から「歯科保健医療に関する最近の動向について」をテーマに、歯科保健医療の現状と令和6年度に向けての概算要求内容から、これからの歯科領域が目指すべき方向性をお示しいただいた。

後半では「歯科衛生士連絡書」について、病院委員会の委員が勤務する各病院での現状をミニレクチャーとして紹介、それらを基に参加者それぞれの立場で病診連携を図るためのアクションプランを考察していただいた。



本協議会において顔合わせすることができた歯科衛生士が今後も横の連携が図れることを願っている。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 病院委員会担当
常務理事 武藤 智美)

日本歯科衛生士会 学術賞

令和5年度の公益社団法人日本歯科衛生士会学術賞は、日本歯科衛生士会表彰規定に基づき、以下の方々が受賞された。

学術発表賞（公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所賞）

第17回学術発表賞は、昨年Web開催した日本歯科衛生学会第17回学術大会の口演およびポスター発表者112名より、学術表彰選考委員会において以下の3名の受賞が決定した。



表彰区分	氏名	タイトル
口演発表賞	矢野 加奈子	頭頸部がんおよび食道がん周術期患者から分離したカンジダ株の検出状況と抗真菌薬感受性
ポスター発表賞	小原 由紀	通所サービス利用者の歯科医療ニーズの実態および歯科衛生士によるアセスメントの有用性の検討
学生研究賞	佐々木 美緒	若年成人を対象とした口腔内感覚と栄養摂取状況との関連の検討

(敬称略)



頭頸部がんおよび食道がん周術期患者から分離したカンジダ株の検出状況と抗真菌薬感受性

矢野 加奈子(広島大学大学院医系科学研究科総合健康科学専攻)

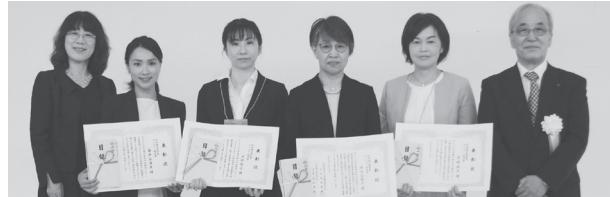
がん治療において、その治療中に口腔カンジダ症を発症する患者は少なくない。特に口腔粘膜炎を有する患者では、血行感染し致死率の高いカンジダ血症を発症することが懸念される。今回、口腔カンジダ症を発症していない頭頸部・食道がん患者の口腔から検体を採取し、カンジダ株が検出される割合と抗真菌薬感受性を調査した。その結果、過去の文献と比較し*non-albicans*属の割合が高く、抗真菌薬耐性株も検出された。口腔カンジダ症を予防するため周術期口腔健康管理の徹底や発症した際の早期治療の重要性、抗真菌薬耐性化の可能性も視野にいれた対応の必要性が示唆された。

この賞を受賞したことを励みに、さらなる口腔カンジダ症のリスク因子の同定に向けて今後も研究に取り組んでいく所存である。

本研究に際し、終始御懇意なるご指導を賜りました太田耕司教授をはじめ、ご協力をいただきました皆様に心より謹んで感謝の意を表します。

学術論文賞（サンスター財団賞）

第18回学術論文賞は、日本歯科衛生学会雑誌Vol.17 No.1およびNo.2に掲載された論文12編の著者から、学術表彰選考委員会において以下の4名の受賞が決定した。



表彰区分	氏名	タイトル
優秀賞	柴田 佐都子	新潟県の通所型障害者福祉施設における歯科との連携状況－連携状況および従事者の連携必要性認識との関連因子－
	宮崎 晶子	口腔清掃用具の使用順序が清掃効果に及ぼす影響
奨励賞	大坪 牧子	ニボルマブで生じた口腔粘膜炎と周術期等口腔機能管理
	藤原 奈津美	口腔体操プログラムは自立高齢者の口腔機能と健康および口腔リテラシーに影響を与える

(敬称略)



新潟県の通所型障害者福祉施設における歯科との連携状況－連携状況および従事者の連携必要性認識との関連因子－

柴田 佐都子(新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔生命福祉学講座)

本研究は新潟県内の通所型障害者福祉施設における歯科との連携の実態を明らかにすること、歯科との連携状況は施設従事者の歯科に対する認識が関連しているという仮説を検証することを目的とした。調査の結果、歯科と連携がある施設は「医科と連携があり」「通所者の口腔に問題があると認識している」施設が多く、「週5日以上の通所者割合が高い」傾向にあった。また、施設従事者による歯科との連携必要性の認識は、通所者に「定期的な歯科受診がないこと」「歯周病やう蝕の疑いがあること」と関連していた。そのため、歯科専門職は医科医療機関との連携を進め、施設従事者に対し、具体的な通所者の口腔の問題や定期的歯科受診の重要性に関する情報提供を行うことが有効であると示唆された。今後も障害者の口腔の健康を推進するための研究に取り組む所存である。

最後に、大変栄誉ある賞を頂き、学会関係者の皆様、共同研究者の皆様に深謝申し上げます。

第5次生涯研修制度を活用して、歯科衛生士としてさらにレベルアップしましょう！



近年、急速な高齢化や社会の多様化、疾病構造の変化、医療技術の高度化・多様化などに伴い、歯科衛生士を取り巻く環境や求められる役割が変化・拡大しています。歯科衛生士の使命は、国民の歯・口腔の健康づくりを支援し、口腔機能の向上および口腔衛生の向上を担う専門職として、人々の健康と生活の質の向上に貢献することです。そのためには、歯科衛生士自身が卒後の継続学習により成長を続け、社会のニーズに対応できるように努める必要があります。政府やさまざまな企業でもリスクリソースの重要性が認識されており、人材開発支援成金の給付も始まっています。変化スピードの速い現代において、学び続けることは社会人の責務ともいえます。

日本歯科衛生士会の「第5次生涯研修制度」は、歯科医学・医療技術の進歩に伴う専門知識・技術の習得、および医療安全などの最新情報に関する研修事業の企画・運営・推進により水準の高い歯科衛生士を育成・認定し、歯科衛生業務の実践力および指導力を高め、国民の保健、医療、福祉の増進に寄与することを目的としています。



第5次生涯研修制度とは??

日本歯科衛生士会ならびに都道府県歯科衛生士会が主催し、歯科衛生士養成機関、専門学会、関係団体などの協力により実施される研修会を対象とし、本会会員のみなさまへ研修単位を付与します。**自己研鑽として研修での学びを日々の臨床に活かす**だけでなく、研修単位を積み重ねることにより**“認定歯科衛生士”を目指す**こともできます。歯科衛生士としてのキャリア形成を考え、計画的に研修を受講してください。(本会ウェブサイトの会員ページより単位取得状況を確認することが可能です。)

研修コースには、①基本研修、②特別研修、③指定研修の3つからなる「専門研修」と、「認定分野における研修」があります。「認定分野における研修」は、歯科衛生士が会報72号で紹介されていますのでご確認ください。
(https://www.jdha.or.jp/PDF/letter/eiseikaihou_72.pdf)



第5次生涯研修制度実施要綱

① 基本研修

歯科衛生士の専門性を高め、歯科衛生業務における臨床実践能力を強化するため、専門研修における基本技術の修得とともに、自己研鑽の機会や利便性の拡充を図り、地域における歯科衛生士の人材育成・人材確保に資することを目的とする。



特別研修について

② 特別研修

学会や研修会などへの参加(区分a)と、研究発表や論文投稿、講演など(区分b)による研修が対象となる。



指定研修について

③ 指定研修

歯科衛生士教育機関などにおける課程を修了した者を対象とする。

なお、第5次生涯研修制度「専門研修(基本研修、特別研修、指定研修)」の取得単位は、年ごと(1月1日～12月31日)に集計し、各コースの修了者を確定しています。

2024年度の認定歯科衛生士セミナー受講対象者

2023年12月31日までの取得単位で確定されますのでご注意ください。2023年度の「特別研修」申請対象期間は12月31日まで、申請締切は**2024年1月10日(水)**となります。

専門研修別・研修内容

※1単位は60分です。

区分	研修コース	研修コースおよび研修項目	単位数
基本研修	A 臨床研修コース	a 歯周治療の基本技術	15
		b 摂食嚥下機能療法の基本技術	15
	B リフレッシュコース	a 幼児・学齢期歯科保健	15
		c 高齢者歯科保健	
		e 歯科薬品・歯科材料等の管理、取扱い方	
		g 口腔機能低下症	
		i 歯科衛生ケアプロセス(歯科衛生過程)	
特別研修	D 自己学習コース	k 業務記録	15
		m 全身管理	
		z トピックス・その他	
指定研修	E 指定研修コース	a 歯科診療所等における医療安全管理対策	15
		b 周術期等の口腔機能管理	15
		c 在宅歯科医療の基礎	15
特		本会指定の教育研修機関等の受講及び学会への参加、発表、論文掲載等。自己申告による。	15
指	E 指定研修コース	歯科衛生士教育機関等における下記の課程を修了。自己申告による。	
		4年制大学課程修了	15
		大学院(修士・博士)課程修了	30
		専攻科および病院等の臨床研修課程修了	15

eラーニング研修事業「DH-KEN」を活用しよう!

DH-KENは、日本歯科衛生士会とデンタルダイヤモンド社が共同開発し、日本歯科医師会にもご推薦いただいている、歯科衛生士向けのeラーニングシステムです。**本会会員は会員番号とパスワードを入力することで、コンテンツ修了後に自動的に生涯研修制度の研修単位付与を受けられます。**さらに、コンテンツに関連するワークシートによる演習を行い、本会へ提出することで、生涯研修単位の追加取得も可能です。

このように個人でのDH-KEN活用の他にも、令和5年度より都道府県歯科衛生士会への研修支援を行っており、集合型研修でDH-KENを視聴する機会も増えていると思います。新たなコンテンツもどんどん追加されていますので、個人でのDH-KEN利用もご検討ください。

日々の業務で忙しい中、自己学習の時間を確保することは容易ではないかもしれません。しかし私たちが接する患者や利用者、地域の方々や他の専門職、学生などに対して、自信をもって専門的技術や知識を提供し、人々の生活をよりよくするための活動や必要な指導を行うには、歯科衛生士として常に学び、レベルアップしていくことが必要です。

歯科衛生士がさまざまな場で活躍し社会に貢献するためにも、日々自己研鑽に努め、その成果を確かなものにしていきましょう。

(公益社団法人 日本歯科衛生士会 生涯研修委員会 担当理事 秋山 恒子)

eラーニング
研修実施要領

DH-KEN

演習用
ワークシート

第6回世界歯科衛生士賞 募集のご案内

世界歯科衛生士賞は歯科衛生学や患者、地域社会、一般社会に優れた貢献をした歯科衛生士を称える目的で2004年に創設し、サンスターとは独立した専門家から成る選考委員会の厳正な審査により選出された歯科衛生士を表彰してきました。4年ぶりの実施に、授賞カテゴリーを4部門から6部門に拡大し、募集しています。

応募資格や選考基準、賞の詳細については、SunstarグループWebサイト(<https://www.sunstar.com/jp/newsroom/news/20230926/>)に掲載されています。各部門1名の受賞者が韓国ソウルで開催される2024歯科衛生国際シンポジウム(ISDH)での授賞式に招待されます。ISDHは世界の歯科衛生士が一堂に会する国際シンポジウムです。研究成果を世界の歯科衛生士に向けて発信できる、またとないチャンスです。奮ってご応募ください。

応募期限	2024年 1月15日(月)	受賞部門ならびに 賞の概要	1.公衆衛生部門／2.臨床部門 3.アカデミア部門／4.アントレプレナー部門 5.新人歯科衛生士部門／6.リサーチ部門	各分野の最も優秀な1名に、1500ドル+ 2024年7月に韓国ソウルで開催される ISDHの参加費、参加旅費を支給
------	-------------------	------------------	---	---

災害歯科保健事業のご案内

1. 災害歯科保健活動 歯科衛生士実践マニュアル2023年度版発行

令和5年6月発行

編集は日本歯科衛生士会災害歯科保健委員会、指導・監修は中久木康一氏

(PDF: 17.2MB)



2. 災害歯科保健歯科衛生士登録者名簿(本会ウェブサイト 8月9日更新)

※ロジ・コーディネーター任期 令和5年7月1日～令和7年6月30日

3. 令和5年度新任ロジおよびコーディネーター歯科衛生士説明会(Web開催)

新任の都道府県歯科衛生士会の災害歯科保健業務調整(ロジスティクス)歯科衛生士および災害歯科保健コーディネーター歯科衛生士を対象に開催された。

開催日時: 令和5年7月9日(日) 13:30～15:00

担当者: 久保山副会長・災害歯科保健委員会・組織委員会



4. 令和5年度災害歯科保健歯科衛生士の育成研修(オンデマンド配信)

都道府県歯科衛生士会より推薦された歯科衛生士を対象に開催された。

配信期間: 令和5年9月1日(金)～9月30日(土)

※本研修受講者は災害歯科保健歯科衛生士として、登録される。

5. 令和5年度災害歯科保健歯科衛生士更新研修開催(オンデマンド配信+受講確認テスト)

有効期限が令和5年3月末までの災害歯科保健歯科衛生士(令和2年度・令和3年度登録者)を対象に開催された。

配信期間: 令和5年11月1日(水)～11月22日(水)

6. 令和5年度災害歯科保健歯科衛生士フォーラムの開催

都道府県会の災害歯科保健業務調整(ロジスティクス)歯科衛生士および災害歯科保健コーディネーターを対象に開催される。

開催方法および日程: ブロック別集合研修 12月3日(日)東日本ブロック・12月10日(日)西日本ブロック

※開催報告は会報80号(4月1日発行)に掲載予定

地域歯科衛生活動事業助成団体による事業実施報告

令和4年度に助成を受けた団体のうち、報告動画を作成してくださった事業については、オンデマンド配信の予定。

配信期間: 2023年12月～2024年3月末(予定)

書面では伝えきれない取組みのポイントなどが盛り込まれ、他の都道府県歯科衛生士会の方々にも参考にしていただきたいと企画された。なお、報告書は日本歯科衛生士会ウェブサイトに掲載。

参考: 歯科衛生だよりカラー版「全国各地から」は助成を受けた団体の報告

R4年度実施報告
(PDF: 2.3MB)

令和4年度 助成を受けた団体	事業名	掲載号*
北海道歯科衛生士会	生涯を通じた口腔健康管理の推進ならびに歯科衛生士の職業PR事業(継続2年目)	72号(R3年度報告)
岩手県歯科衛生士会	子どもの食べる力を育む口腔機能向上普及啓発事業	80号予定
山形県歯科衛生士会	自立支援型ケア会議助言の充実に向けた支援事業～通所サービスにおける口腔ケア充実推進事業～(継続2年目)	71号(R3年度報告)
新潟県歯科衛生士会	通所介護事業所での口腔機能向上加算算定導入支援事業(継続2年目)	73号(R3年度報告)
和歌山県歯科衛生士会	こども食堂における歯科需要に関する調査	78号
島根県歯科衛生士会	オーラルフレイル予防人材確保事業	79号
愛媛県歯科衛生士会	歯科口腔保健による地域支援活動事業	77号
佐賀県歯科衛生士会	がばい!歯びーいい歯の日	76号
大分県歯科衛生士会	地域包括ケアにおける社会資源としての口腔ケアステーション設置事業(継続2年目)	70号(R3年度報告)
NPO法人アダプテッド スポーツ・サポートセンター	2022年度 I(愛)ポッチャ大会 噛む+スポーツで健康長寿を達成しよう	未定

(公益社団法人 日本歯科衛生士会 広報委員会)

～公式Instagram(インスタグラム)お知らせ～

多くの方に日本歯科衛生士会を知っていただくためInstagram公式アカウントを2023年2月に開設いたしました!

ウェブサイトに加えて、本アカウントでも、歯科衛生士に役立つ情報をたくさん発信していきます。会員・非会員を問わず、お気軽にフォローや「いいね！」を、ぜひよろしくお願ひいたします。

【Instagram】アカウント名: jdha.official

(公益社団法人 日本歯科衛生士会 組織委員会)



第26回感染症予防歯科衛生士講習会報告

感染症予防歯科衛生士講習会は、歯科衛生士を対象に、最新の感染症事情、院内感染の予防管理対策や歯科診療所における医療安全対策に関する講習を行うことにより、患者が安心して受けられる歯科保健医療の提供を図ることを目的に毎年開催している。日本歯科医師会と本会の共催であり、今年度は岩手県歯科衛生士会、宮崎県歯科衛生士会の協力により運営された。今回もZoomでのWeb研修とし、3名の講師にご講演いただいた。各日程の定員は250名とし、全国各地から多くの歯科衛生士が受講した。

なお、今回より修了証書は本会Webサイトの会員ページよりダウンロードする形で交付された。

開催日	開催方法	協力	修了者数
令和5年7月30日(日)	Web研修(ライブ配信)	岩手県歯科衛生士会	291名(会員235名、会員外56名)
令和5年9月3日(日)	Web研修(7月30日の録画動画を配信)	宮崎県歯科衛生士会	183名(会員141名、会員外42名)

講演1 新型コロナの始末とこれから

森澤 雄司 氏 (住友商事診療所 所長、一般社団法人感染防止教育センター 理事)



わが国では新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、内閣感染症危機管理庁の新設や日本版疾病管理予防センター(日本版CDC)の設置などの方針が打ち出され、医師の働き方改革も進んでいます。ようやく終息が期待できる状況となってきた今、社会的共通資本として医療はどうあるべきなのかを考える必要がある。

講演2 院内の感染予防管理

野崎 剛徳 氏 (大阪大学歯学部附属病院 口腔総合診療部 副部長・准教授)

院内感染を防止する体制を整え管理することは、全ての医療機関に法的に義務付けられている。「感染対策」という終わりのない「戦い」を続け、患者さまとスタッフの安全、安心を生み出すために、医療従事者には必要な知識を習得し感染予防管理を適切に実践していくことが求められている。



講演3 できることから始める院内感染予防 — 医療安全とチームの視点から —

磯谷 一宏 氏 (赤坂見附磯谷歯科室 院長)



飛沫や粉じんに囲まれた歯科診療の現場では、社会的なニーズや新薬・消毒法の出現、環境問題などによって、最善とされる感染対策方法は変化する。「これで完成。カンペキ!」という感染対策は存在しないため、診療所独自に試行錯誤しながら進化させていくことが必要である。

※本講習会における受講者からの質問および講師からの回答については、本会Webサイトをご参照ください。

受講者以外にも公開しています。



質問内容と回答.pdf

(公益社団法人 日本歯科衛生士会 生涯研修委員会 担当理事 秋山 恭子)

歯科衛生臨床研究助成の紹介

本会では、国民の歯科口腔保健の推進に寄与することを目的として、歯科衛生臨床研究助成を行っています。本研究は、株式会社YDMの協賛による臨床研究テーマに基づく指定研究です。

下記に、2022年度助成者の研究概要を紹介します。(日本歯科衛生学会 第18回学術大会 口演発表O-33)

2024年度研究助成の公募については2024年2月以降の「歯科衛生だより会報」およびウェブサイトに掲載の予定です。

摂食嚥下リハビリテーション臨地実習にVR技術を応用した歯科衛生士教育手法の有用性の検討

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 田中 祐子

近年、摂食嚥下障害を有する患者が増加しているが、歯科衛生士学生が摂食嚥下リハビリテーション(以下、摂食嚥下リハ)を専門的に学べる医療機関が少ないこともあり、臨床を経験する機会は限られている。そのため、情報通信技術を活用したVirtual Reality動画(以下、VR動画)を用いた新たな教育手法が必要であると考えた。そこで本研究は、VR動画で擬似的な臨床体験を通じて、摂食嚥下リハの知識を習得する新しい臨地実習システムを構築し、その有用性を検討することを目的とした。

対象は、臨地実習を終了した某歯科衛生士養成校3年生45名とした。VR動画の視聴前後で摂食嚥下リハの主観的な理解度を評価し、視聴後に症例の客観的評価やミールラウンドの評価方法に関する

質問を行った。

摂食嚥下リハの主観的な理解度は、視聴後に「理解した」と回答した学生が視聴前より有意に多く、臨地実習に応用できる可能性がうかがわれた。客観的評価では、症例により評価項目の正答率に差があった。今回作成したVR動画からでは、評価に必要な情報が得にくい可能性も考えられるため、正答率が低いVR動画では、動画内容の検討が必要であると推察された。また、視聴前の知識習得等の事前教育の検討も必要であることが考えられた。

今回行ったVR技術を応用した新しい歯科衛生士教育手法は、摂食嚥下リハ臨地実習において有用であり、一定の知識を得ることが可能であることが考えられた。

理事会報告

令和5年度第3回理事会が令和5年10月1日(日)に開催された。審議事項および報告事項は次のとおりである。

審議事項

- (1) 令和5年度歯科衛生推進フォーラム及び都道府県歯科衛生士会会长会について
- (2) 情報セキュリティ委員会(仮)について
- (3) 日本歯科衛生学会第20回学術大会について
- (4) 「地域ケア会議」取り組み状況についてのアンケートについて
- (5) 日本歯科衛生士会設立75年記念事業について
- (6) 常勤理事について
- (7) 認定歯科衛生士委員会委員の委嘱について
- (8) 表彰審査会委員の委嘱について
- (9) 認定歯科衛生士審査会委員の委嘱について
- (10) 日本顎関節学会との連携について
- (11) 終身会員の承認について
- (12) 新入会員の承認について
- (13) 令和5年度「災害歯科保健歯科衛生士フォーラム」実施要領(案)について
- (14) その他

報告事項

- (1) 会務報告
 - ① 業務執行理事等の職務執行報告
 - ② 常務理事会の報告
 - ③ 常任委員会等の報告
- (2) 監査実施報告

- (3) 令和4年度事業報告等の提出(内閣府)
- (4) 令和6年度歯科保健関係予算概算要求
- (5) 医療安全推進週間の実施
- (6) 第44回全国歯科保健大会の開催
- (7) 後援名義使用及び生涯研修制度の研修単位認定
- (8) ライフステージに応じた歯科口腔保健推進事業に係る調査研究等一式委員の委嘱
- (9) 令和5年度歯科保健医療情報サイトにおける自治体事例選定委員会委員の委嘱
- (10) 「ICTを活用した歯科診療等に関する検討会」委員の委嘱
- (11) 厚生労働省事業「ICTを活用した医科歯科連携等の検証に係る委員会」委員の委嘱
- (12) 第17回日本災害歯科保健医療連絡協議会の報告
- (13) 日本スポーツ歯科医学会 2023年度第3回理事会および総会の報告
- (14) 日本テレビ news every取材依頼
- (15) 日本歯科衛生学会 第18回学術大会報告(会場開催終了時)
- (16) 韓国保健社会研究院研究員の来訪
- (17) 第13回日本歯科衛生士会・日本臨床歯周病学会・日本歯周病学会合同会議
- (18) 大韓国歯科衛生士協会第45回総合学術大会出席報告
- (19) その他

その他

【配布資料】① 歯科衛生士国家試験の施行(官報公告)

Linking JDHA to IFDH

『International Journal of Dental Hygiene』

本会では、国際歯科衛生士連盟が発行する学術誌「International Journal of Dental Hygiene(IJDH)」を購読しています。会員の皆様にはIJDHが無料公開されているウェブサイトに直接アクセスできるように、最新号の二次元コードを公開いたします。

有料の部分については、IJDHを本会事務所で閲覧することができます。国際協力委員会までお申込みください。
(FAX 03-3209-8023)



国際歯科衛生誌

2023年8月 第21巻3号

本号は主に原著論文17編、総説2編で構成されていますが、このうち3編は日本から本会会員が関わっている研究論文です。

- ① 病院と地域歯科診療所の連携推進に向けた調査研究(中山良子氏、岡山市立市民病院)
- ② 歯科衛生士を対象としたスマートフォンを用いた教育スライドの学習効果の研究(中田正子氏、明見歯科医院)
- ③ 4年制歯科衛生士養成課程卒業生のキャリアと満足度を調査した研究(松本明日香氏、新潟大学)

このように、日本国内で行われた研究が国際雑誌に掲載されることは大変喜ばしいことです。抄録には誰でもアクセスすることができますので、当記事を機にご覧いただけますと幸いです。

(国際協力委員会 委員 竹之内 茜)

